

知事記者会見の概要

日 時：令和2年1月16日(木) 10:00～10:23

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：14名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 暖冬・少雪に係る県内中小企業に対する金融支援について

代表質問

- (1) 高卒予定者の県外流出への対応について

フリー質問

- (1) 雪不足による観光面への影響について
- (2) 発表事項に関連して

<幹事社：朝日・荘内・NHK>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

早速ですけども、今月の 11 日から 14 日までの 4 日間、ベトナム社会主義共和国ダナン市を訪問し、「日本ベトナム文化経済観光交流事業」に、政府関係者、観光経済団体、自治体関係者などとともに参加をさせていただきました。

このたびの交流事業は、ダナン市への領事事務所の開設を機に、日本とベトナムとの相互交流を促進させる目的で実施されたものであります。日本各地から 1,000 名を超える大変多くの方々が参加されました。

1 月 12 日、日曜日ですが、本県独自の用務として、ベトナムに進出している県内企業の関係者やベトナム在住の山形県ゆかりの方々 19 名と意見交換を行いました。そのうちの 11 名の方に「やまがた特命観光・つや姫大使」を委嘱し、さまざまな場面で幅広く山形県の PR を行っていただけるよう協力をお願いしてきたところです。

翌 13 日、月曜日は、「日本ベトナム観光交流シンポジウム」にパネリストとして参加し、蔵王の樹氷や美食・美酒、温泉、ものづくりなど本県の魅力を PR してまいりました。雪や紅葉など四季のはっきりした風景やおしんは、ベトナムの方々の関心が高く、今後の誘客拡大に手ごたえを感じたところであります。

また、担当部局で「日本ベトナム投資・人材活用促進セミナー」に出席し、技能実習生などベトナム人材の送り出しに係る現地での取組状況などについて情報収集を行いました。

午後には、日本から 8 道県、ベトナムから 19 の市と省の地方自治体のトップが参加した知事交流会に出席し、本県の特色や強みを紹介するとともに、交流の拡大に向けて働きかけてまいりました。ベトナム側からは、経済、観光、人材交流のさらなる拡大を期待する発言が多く出されました。

このほか、日越友好議員連盟の会談に参加したほか、日越友好議員連盟会長の二階自民党幹事長とフック首相との会談に同席をしまして、日本とベトナムの友好関係構築に貢献してまいりました。

このたびの訪問を通して、さまざまな分野の方々との関係強化と、本県の知名度向上が図られたほか、ベトナム側の状況やニーズを直接お聞きすることができましたので、これを契機に、経済、観光、人材など幅広い分野における本県とベトナムとの具体的な取組みにつながるよう、しっかりと交流の拡大を図ってまいります。

意見交換の時にですね、山形出身の弁護士の方からお話を聞いたのでありますけども、2018 年の数値ですけれども、ベトナムは人口が約 9,550 万人、平均年齢が 31 歳、大変若いです。そして、GDP 成長率が 7.1 というふうに、大変成長著しい国でありまして、本県にも技能実習生の方が一番多くいらっしゃっております。

日本とベトナムとの友好関係がですね、深まるように、私どもも、そして今後のことを考えて、その成長と活力をですね、ベトナムの活力を本県でも取り込めるようにと言いま

すか、そういった方向も大切だと思っていますので、しっかりと今後も交流をしていければというふうに考えております。

では、恒例となりました、祭りやイベントをご紹介します。

1月17日から19日まで、山形市蔵王ジャンプ台で「ジャンプワールドカップレディース2020蔵王大会」が開催されます。高梨沙羅選手や伊藤有希選手といった世界の女子トップジャンパーの華麗でスピード感あふれる大飛翔をぜひご覧ください。

二十四節気の“小寒”が過ぎて「寒鱈（かんだら）」のおいしい季節となりました。県内各地で寒鱈まつりが開催されます。1月19日には、鶴岡市で「日本海寒鱈まつり」、同じく19日に、遊佐町で「ゆぎ町鱈ふくまつり」が開催されます。また、25日と26日には、酒田市で「酒田日本海寒鱈まつり」、それに合わせて「酒の酒田の酒まつり」が開催されます。酒田市と遊佐町の全9蔵の新酒をいち早くお楽しみいただくことができます。さらに、26日には、山形市で「第4回寒鱈まつり in 山形」が開催され、内陸でも冬の庄内浜の味覚を味わえます。県民の皆様も、冬の美食・美酒を味わいにぜひお出かけください。

それでは私から発表が1つございます。

記録的な暖冬の影響で、県内では雪の少ない状況が続いております。県内のスキー場など観光・レジャー事業を行う中小企業者を中心に、「暖冬・少雪」の影響による売上の減少などから、今後、資金繰りへの影響が懸念されるところです。それで、お配りしております資料のとおり、本日から融資制度と相談窓口による支援を講じることといたしました。

融資制度としましては商工業振興資金による「地域経済変動対策資金」について、「記録的な暖冬・少雪」を、「知事が指定する経済変動事象」に指定します。売上の減少により経営に支障をきたしている中小企業者を支援するというものです。

また、商工労働部中小企業振興課内に「暖冬・少雪に関する特別金融相談窓口」を設置して、県内中小企業者の資金の相談などに応じてまいります。

県としまして、引き続き今回の「暖冬・少雪」による県内中小企業者への影響の把握に努めながら、しっかりと対応してまいりたいと考えております。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

荘内日報の松田です。ベトナム訪問、どうもお疲れ様でした。

それでは代表質問に入らせていただきます。先月の山形労働局の発表によると、昨年11月末現在ですが、県内の新規高卒者の就職状況についてお話ししたいのですが、細かい数字を省きまして、求職者が前年比で減っているのですが、この中で県内希望者は減っており、県外希望者は増えているという、どちらかと言うと県外流出の傾向が高まっています。

一例としまして、ハローワーク酒田の管内なんですけど、県外希望者が 162 人と人数こそ少ないものの、前年比で約 21%増と大幅に増えています。これは県内のハローワークの中でもトップの数字です。もちろん酒田の地元高校と県外企業のつながりなど、いろいろ込み入った事情はあるとは思いますが、若者の県外流出というのは、地域はもとより県全体の活力低下、人口減少や、もちろん少子高齢化にもつながる大きな問題と思われまして。

こうした県外流出の歯止めと、あと地元の定着について、県はどんなふうに対応したらいいのか、知事の考えをお伺いしたいと思います。よろしくをお願いします。

知事

はい。少子高齢化が進む中で、地域に活力を与えることができる高校卒業生の県外流出というのは、大きな課題だというふうに考えております。

山形労働局が公表している資料によりますと、新規高等学校卒業者の就職者のうち、県内に就職した人の割合は、ここ 10 年では、平成 22 年 3 月に 71.4%でありましたところ、平成 27 年 3 月には 79.6%まで上昇しております。そのあと下降を続け、昨年度の平成 30 年 3 月には、77.8%となっておりますが、今年の春、平成 31 年 3 月には 79.2%と上昇に転じております。

平成 31 年 3 月の状況を地域別に見た場合、村山地域が 88.9%である一方、庄内地域は 69.9%と 7 割を切っております、地域別に大きく異なる状況となっております。

このような状況を踏まえ、県では、産学官金労言の連携により、「オールやまがた人材確保・生産性向上推進協議会」を設置し、関係機関が課題や情報を共有しながら、総合的な人手不足対策に一丸となって取り組んでいるところでございます。

若者の地元定着の促進につきましては、県内 4 地域におけるそれぞれの実情や特色に応じて取り組むということが重要でありますので、この協議会の下に総合支庁単位で設置している「地域部会」で取り組んでおり、中でも高校生の地元定着に向けた具体的な取り組みとしまして、置賜では、「おきたま若者人材確保推進員」を今年度新たに配置して、地域企業の魅力を高校側に伝える取り組みを行っております。庄内では、平成 26 年からですけれども、高校生と地域企業との交流会を行っております。

若者の県内定着に向けましては、こうした各地域での草の根運動による県民全体の地元定着に対する意識高揚を図ることが重要でありますので、各地域の取り組みをさらに拡大してまいりたいと考えております。

また、教育委員会では、体系的なキャリア教育の推進と若者の県内定着・県内回帰の促進を主要施策に掲げておりまして、高校卒業生の県内定着促進については、インターンシップを全ての全日制の県立高等学校で実施しております。そのほか本県の産業を担う若者を育てるため、農業・水産・工業に関する学科の生徒を対象に、中長期のインターンシップを実施していると承知をしております。私も、このインターンシップにつきましては、地域のことを理解したり、仕事についての適性などを実感できるなど、効果の大きい取組

みだと考えております。

更に、本県の各分野で活躍する方の講演を全ての県立高等学校で実施したり、探求型の学習において、地域課題や企業を題材に取り上げるなど、地域産業や地元企業の魅力を理解する学習に取り組んでいると聞いております。

都会での生活は家賃や物価が高く支出が多くなりますが、これに比べて山形では、食べ物もおいしく人との関わりが深いなど魅力的な部分がたくさんあります。このような魅力を生徒の皆さんに伝えることで、たとえ県外に出ていったとしても、また地元に戻ってきてくれるような、郷土愛に溢れる人を育てていく必要があると思います。そのためには、地域、企業、関係行政機関、家庭との連携をより一層強化していく必要があると考えております。今回のこの情報をですね、重く受け止めて、なお一層しっかり検討して取り組んでいきたいというふうに思っております。

記者

先ほど話したように酒田のほうでは、だいぶ自治体や地元企業なんかが何て言うんでしょうか、若者がいなくなる町というのはまずいと焦りの声もあげているみたいなのです。そういった面で、今の知事がおっしゃったように、いろいろ企業との高校生との交流なども行われているみたいなのですが、ちょっと言い方が悪いのですが、いろいろ最低賃金とかの問題で、賃金が安い県内よりは県外へというのも一部あるとは思っています。そうした賃金の面からのアプローチというのは、どんなふうなお考えを持っていますか。

知事

そうですね。まず県外に流出する生徒さんたちが、何に惹かれて、どういった理由で、やはり県外を希望されたのかというようなところが、もうちょっと掘り下げて、やはり、調べてみるといいですか、聞いてみるのが大事かなと思います。そういったことがやはり賃金というようなところが大きいということであればやはり、何らかのですね、できるだけのことをしなければいけないとは思っていますので、それは企業さんサイドのことでもありますし、また全国的な課題でもありますので、どうしたことができるのかということを考えなければいけないというふうに思います。とりあえずその、今いただいたその地域の中でもさらに細かく分けての地域ということもあるようでありますので、もうちょっと質的に検討をして調査をしてですね、しっかり取り組む必要があるかなというふうに思っております。

記者

ありがとうございました。代表質問は以上です。

☆フリー質問

記者

朝日新聞の青山と申します。先ほど中小企業に対する金融支援についてご発表があったのですけれども、今年のこの「暖冬・少雪」につきまして観光への影響とかもあるかと思うのですが、そういった懸念については、知事は今どうお考えでしょうか。

知事

観光面の影響ですか。そうですね、観光文化スポーツ部からもちよつと情報をいただいておりますけれども、やはりスキーが目的の方は雪不足なのでキャンセルがあつたりですね、例年よりも2割減とか3割減とか、そういったスキー場があると聞いております。一方でですね、スキーが目的ではなくて雪を見るだけでありましたり、あと外国人の方などは来ていらっしゃるということでもありますので、これは所感ではありますけれども、減少しているのは国内ではないかということを知っています。ただししっかりとですね、内容を調べて分析してみる必要があるというふうに思っています。ですから「暖冬・少雪」の影響で、全体的にはやはりスキー場は大変なのではないかなど。スキー場及びそこに関連する方々ですね。あとは暖冬ということになれば、除雪作業を請け負っている方々とかいられるわけでありまして。これから、それから雪まつり、各地で予定されておりますけれども、延期にするというような所が何か所も聞かれます。

雪のあるべき時に雪がないというのは、やはり観光でありましたり、景気、地域経済ということに対してですね、打撃が大きくなるのではないかと大変懸念をしております。

記者

共同通信の木下と申します。この融資に関してなのですけれども、この暖冬とか少雪を理由にした融資を行うというのが、今回が初めてのことなのかそれともあるいは以前は何年ぐらいにやったことがある施策なのか、ちよつとその辺りのことをお聞かせいただけますか。

知事

はい。私になつてからは初めてかなと思うのですけれども、なお、ちよつと担当に聞いてみます。

商工労働部次長

商工労働部の大通でございます。「暖冬・少雪」を指定したということは、今回が初めてでございます。

知事

初めてということですよ。

記者

これは、この時期に雪がないというのが珍しいというのはいろんな方から聞こえてくるのですけれども、具体的にいつの時点のどんな雪の量をもとにして、これを実行するというのが決まったのですかね。この「暖冬・少雪」というのを、今年はやりましょうと、例えば2年前とかも比較的雪が少なかったとか言われていたと思うのですけれども、去年もです。今回に関しては融資に踏み切ったというのは、どの時点の状況をもとに決めたという感じなんですかね。

知事

12月、1月、まあ1月もちょうど半分になっておりますけれども、スキー場というのはやはり年末年始というのも大変書き入れ時でございますので、そういった時の状況とかです。その後の降雪状況、あとは入れ込み状況、そういったものを勘案してかと思えますけれども。ちょっと担当から。

商工労働部次長

まず気象台が昨年12月年末に発表した段階ですと、記録的な、過去最少ということの発表がございました。そのほか1月から3月の長期予報におきましても暖冬が続くということで、降雪量も少ないという予報が仙台気象台のほうからも発表がありまして、あと先ほど知事からありました通り、県内の影響といたしますか、状況を勘案しまして今回指定ということに至ったという状況でございます。

知事

これまでとこれからの予想も含めてですね。

記者

わかりました。ありがとうございます。